

# 多文化共生都市 Tsurumi



## 1. 多文化都市ツルミの始まり

横浜市鶴見区は外国人登録者数が、7967人(平成16年12月末現在)と市内で2番目に外国人が多い街です。約25%が韓国・朝鮮籍の人々、ブラジルやペルーなどから来た中南米の人々は約31%となっています。また、中国、フィリピンの人々も多く住んでいます。ところで、なぜ多くの外国人が鶴見に住んでいるのでしょうか。

明治43(1910)年日韓併合後、多くの韓国・朝鮮人が日本に移り住みました。大正に入ってから鶴見臨海部の埋め立てが始まり、京浜工業地帯形成期の大正9(1920)年前後から、鶴見の潮田地区に朝鮮半島や沖縄出身の労働者が多く住むようになりました。

第二次世界大戦後も、潮田地区には多くの韓国・朝鮮人の定住が進みました。朝鮮戦争を契機に日本の景気は好転し、京浜工業地帯は拡大していきました。好景気が続く外国からの労働者が年々多くなり、平成2(1990)年出入国管理法が改正され出稼ぎ労働者とその家族も住めるようになりました。そして、外国人の子供たちは地元の学校に通うようになりました。

## 2. ツルミを歩こう

それでは、実際に鶴見の街を歩いてみましょう。鶴見ではブラジル料理店や韓国料理店をよく見かけます。これは、鶴見が多文化社会であることを示しています。鶴見駅から15分歩いた所に東漸寺というお寺があり、ここは大川常吉という人の顕彰碑が建立されています。関東大震災発生時に朝鮮人暴動のデマが広まり、朝鮮人を殺害する事件が起きました。この時鶴見では、当時の鶴見警察の大川常吉署長が身体をはって多くの朝鮮人を救い、1人の死者も出ませんでした。彼の良心をたたえるためにこの碑が作られました。

## 3. ツルミの国際交流

鶴見では年に一度「国際交流まつり」が開かれています。このイベントでは民族料理を食べたり、民芸品に触れたり、世界の歌や踊りを見ることができます。私は歌や踊りのステージを見ていましたが、国・地域ごとに特色が出ていて文化の違いというものを理解できました。運営はボランティア団体が中心となっています。そして、鶴見区ではボランティアと協力して、外国人のために日本語教室や、健康相談会を開いています。また、教育面での国際交流もあります。神奈川県立鶴見総合高等学校では全校生徒約700名中92名が外国人です。国は中国、ブラジル、フィリピン、韓国、ペルー、ボリビア、タイ、パラグアイ、コロンビアと様々です。学校では中国や韓国、フィリピンの料理を作ったり、留学生と交流したり、地元の外国人を呼んで授業をしてもらったりと様々なことをやっています。この学校の文化祭は国際色豊かで、各国の料理が味わえます。この学校では英語だけでなく、中国語とポルトガル語の授業もあります。外国人学生へのサポートとして、国語のほかに日本語の授業を設けています。この学校では、外国人と過ごすことが日常的な光景となっています。



## 4. ツルミと未来の日本

現在、鶴見では様々な面で国際交流を行っています。しかし、これらの活動はまだ多くの人に知られていません。鶴見区のアンケートによれば、実際に交流活動をしている人は2~3割です。これから先、より多くの人に交流活動に参加してもらう努力が必要となってきます。また、学校に通う外国人たちの中には経済的に厳しい家庭もあります。それは、外国人労働者の賃金は日本人に比べ低いからです。安心して日本で暮らし、勉強していくためには自治体や国の支援が必要になってくると思います。

将来日本には、少子高齢化によって発生する労働者不足を解消するために、多くの外国人がやってきます。そうなれば、外国人と接する機会が増えると思います。これから先、お互いの文化を理解し、共に生活できる社会を作ることが今後の課題となるでしょう。

### 参考文献

- つるみ区の白書 あらまし 平成16年版 横浜市鶴見区総務課発行
  - 鶴見区ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/tsurumi/>
- 取材協力者  
神奈川県立鶴見総合高等学校進路支援担当 笹尾裕一さん

